



第128号

発行所 上高井教育会  
発行人 上高井教育会長 治長  
森山明  
編集人 会報編集委員長 男  
勝山一  
印刷所 須坂新聞社

### 研究委員会 中間総括

## 「子どもの育ちをとらえて」

「子どもがねばり強く自己形成していくための指導のあり方」という全体テーマのもとに、各研究委員会ではさまざまな教育実践が積み重ねられてきたと思えます。ここでいくつかの委員会に、どのような問題を持ち、成果を得たか中間報告していただきます。

研究副委員長 富沢慶吉

九月六日に研究委員長会がもたれ、企画編集委員会から三年間の研究のまとめについて具体的な連絡をした。その後、各委員長のところへ、まとめ冊子の原稿用紙を送付したので、小委員のところでもいくつかの事例が選択され、まとめられていると思う。したがって、十一月に行われる第三回の研究日の事例を含めて十二月末には各委員会から原稿が提出される予定になっている。

九月六日に研究委員長会がもたれ、企画編集委員会から三年間の研究のまとめについて具体的な連絡をした。その後、各委員長のところへ、まとめ冊子の原稿用紙を送付したので、小委員のところでもいくつかの事例が選択され、まとめられていると思う。したがって、十一月に行われる第三回の研究日の事例を含めて十二月末には各委員会から原稿が提出される予定になっている。

この頃、あるお母さんが、こんな話をされた。その一「うちの子は、勉強がでなくてこまる。つい頭がきて大きな声を出してしまふ。去年、学級担任が「お前は出来なないな。こんなことでは何処へも行けないぞ。」と「勉強しなさい。」と言えば、

### 〈提言〉 願いを高く 足もとの見返しを

竹前 稀市

地名の由来が書かれている故事を、自分の経験と重ねて読み進める活動を通して、登場人物のおかれた状況や心情を正して、その論理を生かすこと

「俺は出来ないからやっても同じだ。」と。今年になり、教科担任が「お前は、やればできるぞ。こんな出来るではないか。」と。それから、その教科を本気になって勉強するようにになった。お二人の先生とも、子どもを励ましてくださったのだと思うが、今は

### 教育会だより

- 11 10 上高井教育会報第128号発行
- 1 21 第七回代議員会・信教各種研究調査編集委員会中間報告会(2)
- 15 研究委員会(3)
- 17 15 第二回同好会世長会
- 18 17 信教全県研究大会(岩村田小)2名参加
- 19 18 第九回女教師研究大会 於須坂小学校視聴覚室
- 22 秋の講演会
- 25 22 教育会中間会計監査
- 3 25 第十回研究発表会 於須坂小学校視聴覚室
- 12 3 信教教育懇談会 於信教会館 郡から6名参加
- 20 5 第七回常任委員会
- 24 20 第八回代議員委員会・信教各種研究調査編集委員会中間報告会(3)
- 24 20 上高井教育会報 第129号発行・第十回研究発表会・第九回女教師研究発表会・第九回女教師研究大会特集

# 英語研究委員会中間報告

山崎 正 実

61年度の研究テーマは「主体的に学習に取り組み、表現力を高める学習活動はどうあったらよいか」聞くこと、話すことを通して」と設定され62年度は「主体的に学習に取り組む、読む力を高める学習活動はどうあったらよいか」と展開された。本年度はまとめの時期にあたるので、二年間の研究を受けて「生徒ひとりひとりが喜びをもって自己表現できる指導のあり方はどうあったらよいか」聞く、話す活動を中心に」と決定した。六月十四日には、本年度の研究テーマを受けて、小布施中学校渡辺靖爾先生指導のもとに、二年生を中心に「すえ、Lesson 'What am I、の教材を使って学習の展開が行われた。

## 力をめざして した実践に向けて

二人の生徒の自己紹介、昨日来の行動についての紹介があり、過去形もうまく使い、既習の文型や語句が巧みに活用された紹介文であった。その紹介文の最後に、Mr. Harstickへの質問が付加されていて、そこから更に生徒とMr. Harstickと対話が続けられた。Mr. Harstickが適切な自己紹介と質問をしてくれ、言語使用の幅と内容の深まりを感じさせる学習になっていく。そこに生徒は満足感を味わうのである。この時、更に他の生徒に質問を投げかけ、対話活動が行われると、更に生徒の活躍の場が広がられるとの意見も出された。

また、team teachingのよさを生かし、比較の問題を扱う導入の場面「Am I bigger than Mr. Watanabe? Am I taller than Mr. Watanabe?」Mr. Harstickが参加してやるころなどは、具体的に比較しやすく生徒が興味を持ち、笑いがおこって、本場にコミュニケーションができていた場面といえよう。

この研究授業を土台として十一月十五日には、生徒が更に意欲を燃やし、ねばり強く学習に取り組める授業展開をはかっていきたいと考えている。(相森中)

# 校章・校歌めぐり ①

日滝小学校



## 日滝小学校 校歌

原田 敏 作詞  
町田 等 作曲

しるわしきやまなみどくようのぞみて  
ひたきはらみのりゆたけししうんわれらし  
うんわれら おいた一つとこころ つどめはげまん  
もろどもによまびのまどのほこーりもて

「美しき山脈遠く四方にのぞみて」と歌われる校歌は昭和二十七年の日本の独立を記念してのPTA事業の一環として制定された「日滝小学校百年誌」に記されている。

公募の中から詞は、当時日滝小学校の校長原田嗣先生の作品が選ばれ曲は、かつて当校で教鞭をとられ、当時信大教授の町田等先生に依頼して作られた。

一節は美しい日

「美しき山脈遠く四方にのぞみて」と歌われる校歌は昭和二十七年の日本の独立を記念してのPTA事業の一環として制定された「日滝小学校百年誌」に記されている。

公募の中から詞は、当時日滝小学校の校長原田嗣先生の作品が選ばれ曲は、かつて当校で教鞭をとられ、当時信大教授の町田等先生に依頼して作られた。

一節は美しい日

落成式並びに校歌碑の除幕式

校章は昭和二十九年講堂の落成式並びに校歌碑の除幕式

に合わせ制定されたものである。これも公募多数の中から当時の日滝小学校教頭の唐沢宏先生の作品が選ばれた。

図案は宮居の清い松が永遠に伸びゆく姿を象徴して三葉の松を中心とし、その間に将に勢いよく昇ろうとする太陽即ち日滝の日を表現し、両者をあわせ模様化し、小学校の小の字と三者を一体にまとめあげたものだと言われている。県下にも松をあしらった校章は数多いが、中でも当校の校章はすっきりしている中に形、品よく落ちついたまとまりを持っていて、バッジにも作られ、子どもたちの胸に輝いている。(前角昭男)

# 保健体育研究委員会の中間報告

清水 真

一、研究テーマ  
子どもひとりひとりが粘り強く課題を追究していくための体育の指導はどうあったらよいか(子どもが生き生きと身体活動をするための場面構成と評価のあり方を求めて)

二、第一回研究委員会  
●実証授業  
高甫小学校五年級組  
単元 マット・跳び箱運動  
授業者 松本章平教諭

●成果

子どもが粘り強く課題を追究していくための手だてとして、①子どもの実態に応じた技を重点種目として子ども自らに選ばせて練習に取り組みさせることによって意欲化を図る。②技のポイントカードを持たせ、それと自分の現在のできばえを照らし合わせることによって、自分のつまずきや課題をより明確なものにさせ、また自己評価と相互評価に役立たせる。③視聴覚機

器(VTR・コンセプトフィルム等)の利用によって、個々の把握と見返しを効果的にさせる。④用具や練習場所を工夫することによって一人練習ができる時間や場を保障し個人のおつまずきを克服できるようにする。等々を考慮して授業を展開したところ、どの子どもも生き生きと課題追究に取り組む姿が見られ、技能も向上した。中心講師の三枝先生からも、この方向で更に研究を深めるようにと御指導をいただいた。

○その他  
マット・跳び箱運動について全員が実技を通して教材研究をし、理解を深めた。

三、第二回研究委員会  
先に行なわれた高甫小の授業記録をもとに、「自己形成する子どもの姿を切りとる」に焦点を当てて授業分析をした。

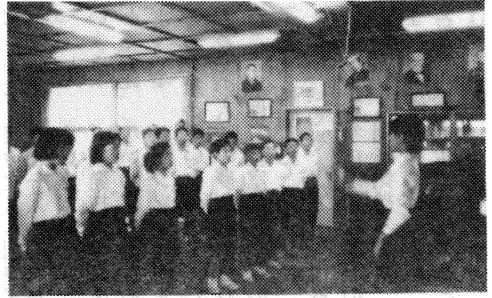
四、第三回研究委員会  
これまでの経過と成果を踏まえ、常盤中学校においてマット運動(女子)を通して更に研究を深める予定である。(高山中)



# 教育実践

## 子どもの生きる

### 子どもを主体に



## 音楽研究委員会中間報告

北原孝雄

世話係の山崎昌校長先生（墨坂中）に御指導を仰ぎ、私も音楽委員会のメンバーは31名、研究討議を進めるにはちょうどよい人数である。

今年の研究は、三枝孝弘先生を中心講師にお願いして継続している郡のテーマ「子どもがねばり強く自己形成をしていくための指導のあり方」の三年目、つまりまとめの年であり、我が音楽委員会もその方向に目を向けて、若干の緊張を覚えている。

さて、第一回の研究会は、六月十四日、高山中で開かれ内山満先生が研究授業をして下さった。中学三年の混声四部「はにゅうの宿」であった。音楽委員会のテーマは「美しい表現をめざして、ねばり

強く学習する子ども」であり、サブテーマとして「子どものつまずきの見取りを通して」としてある。

高山中では、人間関係でつまずいている生徒への見取りを中心に研究を深めた。クラスははじめに取り組むすばらしい生徒であった。

第二回の七月二十七日、夏休みの初日に開かれた。実技の練習をしたという委員の要望を考慮して、私も自身の合唱と指導の実習をした。講師は、第一回にお願いした信大の飯田忠文先生であった。

検討を深めることも大切な研究ではあるが、私たちは実技を高めることも、より大切な研修なのである。

ヴェルディのオペラ「ナブッコ」の合唱では、暑い夏なのに冷たい汗を流し、「夏の思い出」「はるかな友に」等の指揮の実習では、自分の腕でありながら、こども自由に動かないのかと変な感心をしたことであった。

しかし、実習は楽しい。会員も満足げな表情であった。折をみては、歌い続ける楽しい委員会でありたいと思っている。十一月には最後の研究会が小山小である。期待大である。（常盤中）

## 特別活動研究委員会中間報告

三沢宏尚

『個と集団とのかかわりの中で、一人ひとりの自己指導力を高めるにはどのようなしたらよいか』を研究テーマに

すえて三年目、まとめをする大事な年を迎えたが、委員の大部分が新しいメンバーとあって、先ず今までの二年間の研究内容を理解することから

①自己指導力の前提となる、ありのままの自分を確かに見とる力をつけるにはどうしたらよいか。そのための資料はどうあったらよいか。

②自分のあり方を考え、より良い方向に変えていこうと決意させるための資料はどうあったらよいか。

この視点に立って、墨坂中一年の学級指導「より良いクラスをめざして」の授業をしていただき、松本眞先生のご指導や授業分析などによって研究を深めた。

第一回の授業研究で次のことが問題になった。

①自己指導力のとらえをより明確にする必要があること。

②学級経営を基盤にした意図的・計画的な学級指導としての具体的なプランを持つこと。

③個と集団のかかわりを、それぞれの子の考えを、できるだけ長期にわたってとらえ、それをふまえて授業をしくむこと。

④問題を持つ子を即、学級指導の対象生とするのは無理な場合が多い。むしろ、その子をとりにくく集団の中から選定した方がよいのではないか。個の変容をねがう手だてとともに、個をとりにくく集団の変容を求める手だてが重要であること。

⑤二点資料の役割は十分認められるが、その内容と扱い方は、教師の発問とともに、学級の実態によって異なるので、より実態に即したものにする必要があるのであること。このような点をふまえた研

## 道徳研究委員会中間報告

町田徳

研究課題を明確にして第二回研究授業（高山小五年）を実施するよう、小委員会でも検討を重ねている段階である。（豊洲小）

研究テーマ「子どもが道徳的問題に自ら気づき、望ましい生き方を求め続ける学習のあり方」はどうあったらよいか「サブテーマとして「愛校心、郷土愛、愛国心の指導を通して」の問題について研究を進めています。サブテーマの内容について今まで研究会で取り上げられなかったので指導内容について研究しようということになり、七月二十七日の第二回研究会では、第一回の授業記録を各委員が授業分析したのを持ち寄り、生徒の発言、担任の発問や助言を一層深く検討しました。講師の先生から今後の研究のあり方について大事な点についてのご指導をいただきました。

二回の研究会を通して、内容が児童、生徒の自分自身の問題になっているのか、自分の胸の内が吐き出されるような価値追求になっているのか、自分がこういう人間になるために何が不足しどうしたらいいか自己に問える指導になっているか、問題になってきました。

これまでの研究を日常の道徳授業に生かすと共に、第三回の研究委員会での研究が一層充実するようにしたいと考えています。（井上小）

六月十四日の第一回研究会委員会は墨坂中学校で清水保博先生の「二人一校をあらわす」





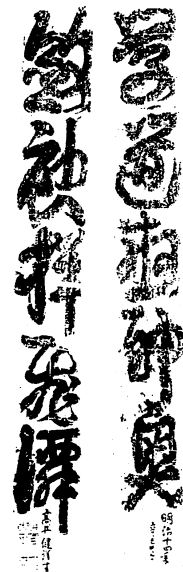
# 子どもの眼

渡辺 靖

# 郷土の文化財 ⑧

梶原豊守神社の大幟

須坂市・野辺町



この幟は、明治十四年、高井鴻山が七十六歳の時に揮毫したと言われている。「学道遊神興」「欽袂掲飛儼」と記されている。学道神興に遊び欽袂掲飛儼と読む。欽袂は、えりを直すであり、飛儼は仙人(すぐれた人)である。大幟は二つで対になっており、その一つの大きさは、長さ十二・八五メートル、幅は一・四五メートルである。住民は五反幟と言っている。新道が出来てから祭りの当日には、大き過ぎて危険なので掲げないで大切に保存している。(神林)

わら半紙を子どもたちに配り、無記名でアンケートを採った。「先生のこと好きか嫌いか書きなさい。どちらでもない、というのはためです。そしてその理由を頭に浮んだ順に三つ書きなさい。」を指示した。今の子どもたちを受け持った三年目。こんなことを聞いたのは初めてなのでびっくりしたようだった。

私が毎月購入している雑誌「授業研究」(全部読んでないから講読と言えない)に「あなたは学級の子に好かれていますか」という企画があった。なかなか考えさせられる内容であったので、早速私もやってみることにした訳である。たぶん好かれている(日野小)

理由として挙げられたもののトップは、私の予想通り、「すぐおこる」であった。私は短気なので自分では「おこるまい」とセーブしているつもりなのだが、やはりトップであった。先日、母親からこんな話を聞いた。「近くの小学校の運動会の練習、ちよっとのぞいたんだけど、先生ってどなたばかりいるんだね。」人ごとではない。

吹奏楽部の顧問になった昨年四月。音楽の教師とはいえないほどど合唱畑にしかないなかつた私にとって、恐れていたものがついにきた、という感じだった。情熱をもって我が校の吹奏楽部を育ててくれた前任者より受けついで、暗中横をだしているのかわからない。いや、楽器の名前さえも有名(楽器しかわからない。何が良いか何が悪いかかわか

だろ?)と思いつつ。結果は無残なものである。「好き」と答えた子が13名。「嫌い」と答えた子が20名。信任投票であれば不信任、解職である。正直言って甘い期待があったからショックであった。

吹奏楽部の顧問になった昨年四月。音楽の教師とはいえないほどど合唱畑にしかないなかつた私にとって、恐れていたものがついにきた、という感じだった。情熱をもって我が校の吹奏楽部を育ててくれた前任者より受けついで、暗中横をだしているのかわからない。いや、楽器の名前さえも有名(楽器しかわからない。何が良いか何が悪いかかわか

いろいろな先生方を頼って話をつたえたり、講習会に参加したり。わからないことを指導するのは、本当に辛いなあと思ったが、それでも悪戦苦闘しているうちに、不思議と耳も育ち、いろいろ聴き分けられるようになって

いろいろな先生方を頼って話をつたえたり、講習会に参加したり。わからないことを指導するのは、本当に辛いなあと思ったが、それでも悪戦苦闘しているうちに、不思議と耳も育ち、いろいろ聴き分けられるようになって

いろいろな先生方を頼って話をつたえたり、講習会に参加したり。わからないことを指導するのは、本当に辛いなあと思ったが、それでも悪戦苦闘しているうちに、不思議と耳も育ち、いろいろ聴き分けられるようになって

いろいろな先生方を頼って話をつたえたり、講習会に参加したり。わからないことを指導するのは、本当に辛いなあと思ったが、それでも悪戦苦闘しているうちに、不思議と耳も育ち、いろいろ聴き分けられるようになって

いろいろな先生方を頼って話をつたえたり、講習会に参加したり。わからないことを指導するのは、本当に辛いなあと思ったが、それでも悪戦苦闘しているうちに、不思議と耳も育ち、いろいろ聴き分けられるようになって

いろいろな先生方を頼って話をつたえたり、講習会に参加したり。わからないことを指導するのは、本当に辛いなあと思ったが、それでも悪戦苦闘しているうちに、不思議と耳も育ち、いろいろ聴き分けられるようになって

いろいろな先生方を頼って話をつたえたり、講習会に参加したり。わからないことを指導するのは、本当に辛いなあと思ったが、それでも悪戦苦闘しているうちに、不思議と耳も育ち、いろいろ聴き分けられるようになって

いろいろな先生方を頼って話をつたえたり、講習会に参加したり。わからないことを指導するのは、本当に辛いなあと思ったが、それでも悪戦苦闘しているうちに、不思議と耳も育ち、いろいろ聴き分けられるようになって

いろいろな先生方を頼って話をつたえたり、講習会に参加したり。わからないことを指導するのは、本当に辛いなあと思ったが、それでも悪戦苦闘しているうちに、不思議と耳も育ち、いろいろ聴き分けられるようになって

いろいろな先生方を頼って話をつたえたり、講習会に参加したり。わからないことを指導するのは、本当に辛いなあと思ったが、それでも悪戦苦闘しているうちに、不思議と耳も育ち、いろいろ聴き分けられるようになって

いろいろな先生方を頼って話をつたえたり、講習会に参加したり。わからないことを指導するのは、本当に辛いなあと思ったが、それでも悪戦苦闘しているうちに、不思議と耳も育ち、いろいろ聴き分けられるようになって

いろいろな先生方を頼って話をつたえたり、講習会に参加したり。わからないことを指導するのは、本当に辛いなあと思ったが、それでも悪戦苦闘しているうちに、不思議と耳も育ち、いろいろ聴き分けられるようになって

# 吹奏楽部を受けもって

越 徳子

吹奏楽部の顧問になった昨年四月。音楽の教師とはいえないほどど合唱畑にしかないなかつた私にとって、恐れていたものがついにきた、という感じだった。情熱をもって我が校の吹奏楽部を育ててくれた前任者より受けついで、暗中横をだしているのかわからない。いや、楽器の名前さえも有名(楽器しかわからない。何が良いか何が悪いかかわか

いろいろな先生方を頼って話をつたえたり、講習会に参加したり。わからないことを指導するのは、本当に辛いなあと思ったが、それでも悪戦苦闘しているうちに、不思議と耳も育ち、いろいろ聴き分けられるようになって

いろいろな先生方を頼って話をつたえたり、講習会に参加したり。わからないことを指導するのは、本当に辛いなあと思ったが、それでも悪戦苦闘しているうちに、不思議と耳も育ち、いろいろ聴き分けられるようになって

いろいろな先生方を頼って話をつたえたり、講習会に参加したり。わからないことを指導するのは、本当に辛いなあと思ったが、それでも悪戦苦闘しているうちに、不思議と耳も育ち、いろいろ聴き分けられるようになって

いろいろな先生方を頼って話をつたえたり、講習会に参加したり。わからないことを指導するのは、本当に辛いなあと思ったが、それでも悪戦苦闘しているうちに、不思議と耳も育ち、いろいろ聴き分けられるようになって

いろいろな先生方を頼って話をつたえたり、講習会に参加したり。わからないことを指導するのは、本当に辛いなあと思ったが、それでも悪戦苦闘しているうちに、不思議と耳も育ち、いろいろ聴き分けられるようになって

いろいろな先生方を頼って話をつたえたり、講習会に参加したり。わからないことを指導するのは、本当に辛いなあと思ったが、それでも悪戦苦闘しているうちに、不思議と耳も育ち、いろいろ聴き分けられるようになって

# ソウル五輪が 残したもの

ベン・ジョンソンは  
氷山の一角

島田女久美

九月二十四日12時30分、男子100M決勝が行われた。世界一はリュスカジョンソンか、夢の対決は9秒79というすごい速さのジョンソンの圧勝に終わった。「おれより速い男は今後五十年出ない。」と自信に満ちあふれたジョンソンの弁である。どの新聞紙上でも賞賛された一日であった。しかし、三日後、「薬に汚れた最速の男」「薬物ショック」「最速男」という見出し

タノゾロールが検出されまし。なぜ?あんなに速いジョンソンが、ドーピング検査のあることを知りながら。このジョンソン事件の裏には、スポーツ大国では、勝つことがそのままお金につながるということ。五輪で金メダルをとるということは、一生の生活を保障されたといっても過言ではないそうです。そういう国の選手は、大かれすなかれ、薬物使用の誘惑に負けてしまう事情もあるようですが、名譽のみ与えられる日本では考えつかない事の様です。また五輪商業化・プロ化という批判をかすすためにもドーピング禁止に力を入れていたIOCにしてみると五輪クリーン化をめざし「小物を何十人より大物一人」をねらっていたきらいもないではないようです。摘発技術の裏をかく方法もないわけでもないようです。ジョンソンは隠す努力を怠っていたのか?私たちが多くの人々の夢がこわされたこの事件、教室の三年生の子どもに聞いてみました。「どうしてそんな薬を作るの?」と科学の進歩に批判の声が。私も同じ気持ちです。また、他より秀れたことが、名譽でなく生活につながることは。

でジョンソンの金メダルはく奪の記事で紙土をうずめた。わずか三日間の栄光である。少し前には、重量上げの金メダリストが薬物使用で金はく奪の事件があつたばかり、世界中の人々と共に100M決勝に興味を持っていた私にも大きなショックでした。選手は競技後にドーピング検査を受けますが、ジョンソンの尿中から服用禁止の筋肉増強剤のス

「どうしてそんな薬を作るの?」と科学の進歩に批判の声が。私も同じ気持ちです。また、他より秀れたことが、名譽でなく生活につながることは。(栗ガ丘小)

# 編集後記

長い間、連載されてきました学校づくりも各校一巡しましたので終わらせていただき、今回から新連載が始まりました。校章・校歌めぐりというコーナーです。各校の自慢の校章・校歌の意味するもの、できた由来など紹介してもらいたいと思っています。校章・校歌の紹介は昭和四十七年にも連載されましたが既に十六年も経ち、上高井の先生方もだいぶ変わられたと思いますので御了承下さい。なお、今回忙しい中で原稿をお書き下さった先生方、研究委員会の先生方にお礼申し上げます。(神林・廣瀬)

この幟は、明治十四年、高井鴻山が七十六歳の時に揮毫したと言われている。「学道遊神興」「欽袂掲飛儼」と記されている。学道神興に遊び欽袂掲飛儼と読む。欽袂は、えりを直すであり、飛儼は仙人(すぐれた人)である。大幟は二つで対になっており、その一つの大きさは、長さ十二・八五メートル、幅は一・四五メートルである。住民は五反幟と言っている。新道が出来てから祭りの当日には、大き過ぎて危険なので掲げないで大切に保存している。(神林)